

# 令和6年度 第1回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時 令和6年10月30日(水) 13時30分～15時00分

開催場所 北海道立文学館 地階講堂

## I 次第

- 1 主催者挨拶
- 2 議題
  - (1) 令和6年度事業の実施状況について
  - (2) 令和6年度道立文学館利用者満足度調査について

## II 出席委員

(敬称略；あいうえお順)

氏名	所属等
東谷 一彦	【学識経験者】 札幌国際大学短期大学部 非常勤講師
辰巳奈優美	【利用者】 公益財団法人北海道文学館賛助会員(俳人協会北海道支部 事務局長)
古内 良輔	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会 事務局長)
渡辺 俊之	【社会教育関係者】 公益財団法人北海道生涯学習協会 専務理事
渡部 浩士	【学校教育関係者】 学校法人聖公会北海道学園 認定こども園聖ミカエル幼稚園教頭

## III 委員からの意見等

### 委員)

特別展「絵本作家 降矢なな原画展」を実際に見させていただき、とても良い内容であると感じましたが、降矢さんは北海道との関わりがあまりないと思いますが、どういった経緯で特別展を開催したのでしょうか。

### 事務局)

北海道とのご縁は、丁度10年前、2014年に当館で開催した特別展で、2011年の東日本大震災後、日本の絵本作家たちが中心となり、「3.11後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで、世界の絵本作家たちに作品制作を呼びかけ、その結果集まった7か国の絵本作家110人による絵とメッセージをご覧いただく「手から手へ展 絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ FROM HAND TO HAND」だったのですが、世界の絵本作家たちに作品制作を呼びかけるにあたり、その中心的な役割を果たしたのが降矢さんで「手から手へ」実行委員会を組織し、北海道においては当時の財団理事などが中心となって働きかけて、当館で開催したというご縁があり、また全国的に人気があって、優れた絵本作家を紹介していこうということもあり、今回、その降矢さんの原画展を開催するに至りました。

### 委員)

私も降矢ななさんの展示を見せていただきました。また「北海道リモート・ミュージアム」のYouTubeも見ましたが、降矢さん本人へのインタビューも親しみの持てる雰囲気でもとても良かったです。絵本「きよだいなきよだいな」に登場する「巨大な電話」を展示室内で再現されたオブジェは、子どもたちが、見て触れて、喜んでいたと思います。「虚子・年尾と北海道」展についてもYouTubeがありますが、このYouTubeの再生回数はチェックなどされているのでしょうか。

### 事務局)

YouTubeは再生回数が表示されますので、再生回数が多いもの、少ないものが分かりますが、だいたい数百回程度のレベルです。2年前の「『よみがえれ！とこしえの加清純子』再び」展のYouTubeは、当館のコンテンツとしてはとても多い、2,600回を超えております。

### 委員)

今日は常設展示室の「文学館アーカイブ」を観覧させていただき、とても貴重な展示内容であると感じました。

「虚子・年尾と北海道」の展示ですが、北海道大学構内で高い場所から写したと思われる記念撮影の写真に、自分の祖父が写っていて懐かしいという方がおり、とても貴重な資料だと思いました。

また「降矢なな展」についても、普段は絵本の絵しか見ていないので、貴重な原画を見ることができ、とても良かったです。

「氷室冴子展」については、私の大学時代の同級生の中に氷室冴子さんが好きな方がたくさんおり、今回の展示を見て、良かったという感想を何度か聞いたところです。

### 事務局)

氷室冴子展には道外から、遠くは京都や福岡などから来たという熱心なファンもいらして展示を見て感想などをノートに書いていただいております。全国にファンの方々が散らばっていて、この特別展を見るためにわざわざ遠くから来ているようで、とてもありがたいです。

### 委員)

こちらに来ていつも思うのですが、とても工夫がされていて、引きつけられるところが多く、久しぶりに常設展示をみさせていただきました。「文学館アーカイブ」といった特別なコーナーを設けて、職員の皆さんがいろいろ工夫され、いつきても新鮮な感じがしてありがたいと思います。降矢なな展を見せていただいた時にも、周りに声を掛け誘ったところ、ファンがとても多いことが分かりました。北海道に限らず、多くの方に好まれる展示などを今回のように開催していただきますと、それが切り口になって文学に親しむ人が増え、ここ文学館へのリピーターがまた増えていくと思います。

今回の氷室冴子展も職場の同僚に話したところ、是非行きたいと言われたところで、アピー

ルの仕方が上手であると思います。

もう一点、このアンケート回答の中の「職員の対応」に関連してですが、訪れた時の職員の皆さんの対応がとても優しく、親切で柔らかい感じが、展示室に入る前に気持ちが整うというか、文学作品に触れる雰囲気<sup>いざな</sup>に誘われていく感じがします。職員の方の声かけ、対応がとても優しく、文学館に向かい入れられる雰囲気になります。

#### 委員)

アンケートの結果を見ますと、来館した方のほとんどが、とても良い印象を持たれていることが分かりますが、いかにして、ここまでできていただくか、実際に来ていただければ、建物の周りの雰囲気もそうですが、展示会をみて本当に良い印象をもってもらえるのは間違いないだろうと思います。

#### 委員)

今回初めて見せていただいて、文学に精通されている皆様とは違って、どちらかという素人目で、降矢なな展と常設展を一緒に見せていただきました。降矢ななさんの原画を見た時に、なんか見たことあるなあと思いました。私は子どもが2人おり、子どもたちに聞いたら知っていて、よく保育園で読んでもらったと言われました。そうか絵本で見たのかと気づいたところです。また常設展を見させていただいた時は、ちょっと難しいなあというか、どういう風に見たら良いのかとその時は思いました。特別展は入りやすいと思います。様々な方の興味、関心に合わせた入口があって、その上で常設展もいっしょに見ていただけるような仕掛けがあると良いのではと思います。今日は解説をしていただいたので、見方というか、ただ単純に来て見て回るよりも、こういう風に見たらいいと分かるような解説があると、より興味、関心をもつきっかけができると思いました。

来た時の雰囲気は、とても丁寧な対応をされていると思います。施設内の清掃がとても行き届いており、展示室内もきれいで、建ててから30年近くも経過して、この環境を維持していることに感心しました。展示も工夫されていて清潔感もあり、見やすい環境にあって、ここへ見に来た時にそういった印象を持つ中で、実際どうやって足を運んでもらうのが課題にされているわけですが、広報についてはどういった形で取り組まれているのでしょうか。この建物があることは知っていたのですが、文学館の存在自体をはっきり認識したのはこちらに配属されてからこういった施設があると知り、足を運ぶきっかけとなったわけで、同じような人が少なからずいるのではないかと思います。

#### 事務局)

その辺が一番の課題でして、限られた予算の中で行わなければならないわけで、その中でできるだけお金を掛けずに工夫ができないか、先ほど説明しましたように、ホームページに動画をアップする、関係機関、図書館ですとか、ものによっては全道の市町村教育委員会にチラシ、ポスターなどを送り、その他にも特別展は新聞にも広告を載せていただいたり、また個別に記者に取材して記事に取り上げていただいたり、そのほかミニコミ誌などにもアプローチし

て載せてもらっているところです。情報誌や広告も毎回、毎回載せていただけるわけではないので、少しでも努力していきたいと思います。近隣のホテルと連携しながら観光客の方にも来ていただけるよう、また中島公園を訪れる方々が文学館にも来ていただけるような広報が必要でして、抜本的な、画期的な何か目立つようなことができればいいのですが、なかなか難しいところです。

#### 委員)

一つ、私を感じたところは、こういった文学の施設は何かこれに来ようというか、これを目的に日本各地から来るコアなファンがいて、ここに来て、ついでに観光もしていこうという方が多いのではないかと思います。ついでに立ち寄ってもらおうという取組はかなりハードルが高いのかと思います。広報で一番反応があるのは、やはりメディアに取り上げてもらう、これが一番効果があります。ただ、そこに広告費を払うことができないので、あくまでもメディアの方が取り上げてくれるかどうかですけれども、中島公園は情報を投げ込みして人に集まってもらうというところではなくて、割といろいろなイベントが開催される中で、言わなくても集まる時もありますが、集まりすぎる時もあります。FAXやメールで情報をメディアに投げ込んで、その情報を元に実際に取材に来てくれるかはメディア側の判断になるものの、夕方のニュースにちょっと30秒でも取り上げられると、一気に来場者が増えるようです。展示会が新しく始まるというときに取材に入って、テレビなどニュースで流れるといいのかと思います。

#### 事務局)

テレビなどメディアの方が取材に来るときもありますが、恒常的に来てもらうのはなかなか難しいところです。情報の投げ込みとしてはメディアに対して郵送でチラシやポスターを送っており、単発のイベントであれば話題性があると取材してもらえるのですが、ひと月以上の長いスパンでやっている展示などはなかなか取材してもらえない状況です。

#### 委員)

確かある新聞社内の掲示板に特別展のチラシが貼ってあったと思いますが、チラシやポスターを貼って貰えるところは少ないのでしょうか。チラシを置いてもらえて、ポスターを貼ってまでは貰えないのでしょうか。ホテルなどはポスターを貼って貰うのは難しいとは思いますが。

#### 事務局)

ポスターは500枚ぐらい作成し、送付していますが、一番期待できるのは地下鉄駅の掲示板で、無料ではあるものの、申し込んで抽選に当たらないとポスターを貼ることができなく、また期間も1か月間と限られ、開催の期間中ずっと掲示できるわけではない現状です。

地下鉄の中島公園駅だけは当館のポスターを掲示できるスペースが1カ所あるので、開催期間中は掲示させて貰っています。

公園内の美観の問題もありなかなか難しく、文学館はこちらですという案内板はあるもの

の、開催中の展示会を表示できる地上のスペースまでではない状況です。

**委員)**

その案内板の下にポスターを貼れないかなと思いますけど。

**事務局)**

中島公園内には当館だけでなく豊平館やキタラなど他の施設もあるので、うちだけというのは難しいと思います。公園内でのイベント等まとめて掲示するスペースがあると良いのですが。

公園を散策していて、文学館の看板を見て立ち寄ってくださる方も結構おります。

**委員)**

チラシなどは渡辺淳一文学館にも置いてあると思いますが、近くですと札幌南高校とか、学校には送っているのですか。

**事務局)**

通常、学校には送っていないのですが、特定の学校に送るという考え方もありだと思います。

**委員)**

私も道立高校にポスターなど送ったら良いと思いましたが、数が多いので、全道は無理でも石狩管内の高校に送ることならできると思います。ただ、今の高校生は新聞を見ない、本を読まないという現状であります。

**事務局)**

高校生はSNSなどはかなり興味を持ってきているようです。

**委員)**

文学館のご近所のお店などはどうなのでしょう。

**事務局)**

近くのコンビニでは特別展のポスターを毎回貼っていただいています。

**委員)**

学芸員の皆さんが全国に繋がる「北海道リモート・ミュージアム」のコンテンツを制作されているのは素晴らしいと思います。このアンケート回答の「来館の目的」欄ですがこれは複数回答ですか。

**事務局)**

複数選択できる項目としており、回答人数より多くなっております。

**委員)**

来館の目的欄の回答件数を見ると、主たる目的が特別展に来て、あわせて常設展も見ていく方が多いと思われます。

**事務局)**

観光客の方ですと、氷室冴子展の場合などは別として、まず常設展をじっくり小1時間ほど見ていく方が多いようです。

**委員)**

回答総数59人に対して来館の目的が常設展としているのが28件もあるのは素晴らしいことだと思います。特別展だけでなく常設展も見ているので企画が素晴らしいからだと思います。

**事務局)**

常設展は65歳以上の方は無料ですので、リピーターとしてまた来ていただけるようにアーカイブを年4回、展示替えをしながら前回と異なるものがあるようにしております。

このたびは貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今後の事業運営に生かして行きたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。